

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス まあぶる		
○保護者評価実施期間	令和7年 5月 7日	～	令和7年 5月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数) 13名
○従業者評価実施期間	令和7年 5月 1日	～	令和7年 5月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 5月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・運動・指先・調理・創作・音楽と多彩なプログラム作成を行うことで、様々な体験が出来る。また個人に合った体験を重ねることで「できた」の成功体験を積んでいる。	・こどもたちの状態を観察し、支援内容へ繋げている。 ・個々の得意な事、好きな事を把握することで、その子に合った活動を提供出来ている。	・幅広い年齢層が、参加できる活動を計画する。 ・こどもたちが安心安全に楽しめる活動を職員間で話し合い、計画する。
2	・保護者に活動の内容や事業所を知ってもらうため、親子会や保護者親睦会を開催することで、親子で活動を楽しみながら、保護者同士のふれあいの場を提供している。 ・地域清掃を行うことで、近隣（地域）と交流できる機会がある。	・公認心理士・管理栄養士・看護師による講義を行い、保護者が知りたい情報を、発信できるようにしている。 ・高齢者施設への訪問を行い、高齢者と触れ合う機会を設けている。 ・保護者懇親会や親子会を通し、保護者の悩み、体験談を話すことで、保護者同士の輪を広げることが出来ている。	・こどもたちの経験・体験を増やす目的として、外出活動などを行う。 ・こどもたちにとって、何が最善であるかを常に職員間で話し合い、共通意識を持ち、支援を行う。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・事故対応、災害対応等の緊急時の対応マニュアルは整っており、訓練も行っているが、保護者へその情報が伝わりにくい状況である。	・保護者への情報発信の方法を見直す必要がある。	・連絡帳以外にもHPやSNSを活用し保護者へ、周知してもらう。
2	・保護者に対してのペアレントトレーニングや、きょうだい支援ができていない。	・ペアレントトレーニングを行うには、職員の技術も必要になってくる。現時点では、こどもたちへの療育を行うことに、集中している。 ・開設して1年ちょっとのため、きょうだい支援を行う計画が立てられていない。	・研修や講習の機会を増やし、トレーニングが行えるよう職員育成をする。 ・親子会以外にも、きょうだい参加を中心としたイベントを計画していく。
3			

事業所名		放課後等デイサービス まあぶる		公表日		令和 7 年 5 月 30 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		利用者の人数や、児の状況に応じて対応できるスペースがある。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	4	2	学年や特性を考慮し職員配置を行っている。	下校時間が重なりと人員的に不足を感じる場合があるため改善策を考える。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	支援スペース（トイレ・手洗い場）はバリアフリーとなっている。	入口は段差があるため、今後対策を考える。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		個室対応の居室を用意することで、不安定な気持ちになった児童に対し、落ち着ける空間を提供できている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		用途に合わせたに合わせた個別支援室が用意されている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3	3	必要であれば振り返りについての時間を設けている。	毎回ではないため、今後対策を考える。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	2	評価自体が初めてであるため、まだ生かされていない。	今後評価表を参考に改善に努める。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	施設会議・個人面談において、個人の意見等を聞く機会を設けている。	普段から意見が言いやすい環境作りを行う。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	現在は行われていない。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	6		施設内外において、職員全員が個人にあった研修が受けられる体制を取っている。また常に共通意識が持てるよう集団による研修・講義も行っている。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		見学（体験）時も含め、保護者にじっくり話を聞き、そのあとでアセスメントをしている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	2	施設会議を通して話し合いを行っている。	全てではない。今後職員全員が共通認識を持てるよう、検討会を行う。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		行われている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	3	全てではない。	職員全員が、確認できる体制をつくる。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	1	個別支援計画に記載されている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	2	児発管の立てたプログラムを基本とし、支援員全員が計画に携わっている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		毎月新しい活動を1つ取り入れている。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		5領域を基本とし、計画している。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		朝礼や会議を利用し、打ち合わせを行っている		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	4	勤務時間のばらつきによって支援後は無理であるが、翌日朝礼や記録にて情報共有している。	振り返りの時間が持てるよう、改善する。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		全員が記録を確認できる体制をとっている。		
	23	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	1	半年を目処にモニタリングを行っている。		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6		毎日違う活動を提供することで、基本活動支援を行っている。高齢者施設への訪問や、地域清掃を取り入れ地域との交流の場を作っている。		

	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		活動を通して、自己選択する機会をつくっている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		施設長・児発管が参加している。	職員も参加できる体制作りを行う。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		医療に係る児童がいないため、医療機関との連携はしていない。 教育、福祉機関とは連携している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		学校を訪問し、教員と情報交換を行い支援内容を共有している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	1	児童発達のみにとどまっている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		6	対象者なし	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		定期的に研修、講義を受け連携している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		6	現在は行われていない。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	3 (不明2)	協議会からの案内があるときは参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時にその日の状況をお伝えしている。	
保護者への説明等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1	保護者向けの栄養指導や、公認会計士を交えた座談会を行った。	外部セミナーの案内についても積極的に行う。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	(不明2名)	契約時に説明を行っている。	説明を行っていることを、職員が理解できるようにする。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けていか。	5	(不明1名)	見学・契約時、計画更新時に意向を聞き、サービス計画を作成している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	(不明1名)	計画を説明しながら同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		児発管だけではなく、保護者の悩みや困り事については職員全員が共有し、相談に応じられる体制をとっている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6		保護者交流会は開催しているが、きょうだいにおいては、現在行われていない。	親子会にきょうだいが、参加できることをアピールしていく。 きょうだいを含めた交流会を、検討する。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		苦情窓口を、施設、第三者委員会と2つ設置し、保護者が話しやすい場を提供している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		毎日ではないが、HP・SNSにてイベントや日々の活動内容を、発信している。	今後定期的な発信を検討する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		職員全員が留意している。	
非常時等の対応	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		保護者に関しては、公的機関と連携している。 児童に関してはカードを利用することで、児と疎通が取りやすい体制を整えている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	5	招待はおこなっていないが、地域清掃をすることで、地域貢献を図っている。	今後イベント等の機会に、交流が持てるよう検討していく。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		各種マニュアルは、施設内にて提示しており、いつでも誰でも確認できる状態である。訓練も実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	(不明1名)	BCPを作成しており、訓練も実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		該当者なし。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	(不明2名)	該当者なし。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		研修・訓練を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	1	3 (不明2名)	安全計画に基づく訓練等の周知はされているが、計画自体の周知においては、不十分である。	今後、保護者へ周知する。

	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハットを3か月毎に職員全員で見直しを行い、再発防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		定期的に研修を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		記載されている。	